

基議総文第361号
令和2年2月25日

基山町議会
議長 品川義則様

総務文教常任委員会
委員長 栗野久明

所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を終了したので、その結果を報告します。

記

1 調査事項並びに調査期日

- (1) 教育行政について（令和2年2月3日）
（基山小学校・基山中学校への現地視察）

2 調査結果

基山小学校では小学校教育の現状把握、基山中学校では大規模改造工事の進捗状況の確認を目的とし、現地視察を行った。

基山小学校は、令和元年度1年生4クラス、2年生から6年生は各3クラスの計19クラス、特別支援学級は7クラスで、児童数は635名である。令和2年度は1、2年生各4クラス、3年生から6年生は各3クラスの計20クラス、特別支援学級は1クラス増の8クラス、児童数は637名になるであろうとの説明を受けた。全学年の授業を参観したが、どの学年も教師を中心に落ち着いた雰囲気での学習が行われていた。

その後、基山小学校ランチルームにおいて、教育長、教育学習課長、指導主事、基山小学校教職員（校長、教頭、主幹教諭及び指導教諭、1年生から3年生の学級担任各学年1名、特別支援学級・通級指導教室担任）との質疑応答、意見交換を行った。

教育委員会に対して何か要望等がないのか質したところ、教室の環境整備について、次のような意見があった。

- (1) 現在でも1階2階に教室が分かれており、来年からは2階にも教室がおかれる等、連絡が取りづらい。

(2) 特別支援学級は狭い教室があるため、隣の教室の声や音が聞こえて児童が集中できないことがある。このことから、新設される特別支援学級の場所が音楽室の隣であることから、音に敏感な児童について心配している。

また、学習指導要領の変更に伴い、苦慮している点を質したところ、英語については専門のALTがおり、非常に手助けになっている。道徳については教材づくりに苦勞している。プログラミング教育については、講習は受けたが専門性が高く、どこまで教えられるか不安が強く、専科の教師の助けがあればとのことであった。

次に、基山中学校の大規模改造工事において、床・壁・照明等の施工状況及び学習環境への支障等について、現地確認を行った。

当委員会としては、教育行政において、教育環境の整備は最重点項目と位置づけ、更なる施策の充実を図っていくこと、そのためには教育学習課と現場である学校関係者の話し合いの場を数多くもつように提案した。